

大寶寺第 26 世晋山式および 法然上人八百年大遠忌お待ち受け法要



〒 915-0823
福井県越前市本町 10-2
親縁山 大寶寺
TEL/FAX (0778) 22-1682

平成十九年四月十五日、大寶寺第26世の晋山式と元祖法然上人八百年大遠忌お待ち受け法要が、知恩院御門主坪井俊映猥下、また、県内外のご来賓の列席のもと挙行されました。

中宿の鎌谷邸を出発した新任住職は午前九時半、改修の終わった山門を通って本堂に入り晋山式が執り行われました。

心配された天気にも恵まれ、穏やかな春の日差しのもと、午後一時から越前市京町の正覚寺から、お稚児さんや付添の人、また僧侶、楽人など、総勢五百人を超えるお練りの行列が実施されました。

稚児が堂内を通り抜けたあと、御門主猥下がお導師をお勤めいただき、元祖法然上人八百年大遠忌お待ち受け法要が厳かに執り行われました。

お待ち受け法要に引き続き役員およびご列席を頂いた僧侶の方々総勢百二十名ほどで記念写真を撮りました。その後皆さんが境内に並んで御門主猥下ご一行をお見送りしました。

午後五時から、武生商工会館パレットホールにて、二百名余りが参加して、祝宴が開かれました。おめでたい鶴亀の舞やマリンバの演奏もあり、楽しい一時を過ごしました。

念写真を撮りました。その後皆さんが境内に並んで御門主猥下ご一行をお見送りしました。午後五時から、武生商工会館パレットホールにて、二百名余りが参加して、祝宴が開かれました。おめでたい鶴亀の舞やマリンバの演奏もあり、楽しい一時を過ごしました。



前任職から新命に、過去帳、伝衣の伝達。

山門前にて開門式。



新命住職挨拶

おかげさまで、晋山式およびお待ち受け法要を無事終えることができました、これも、み仏さまのご加護と、檀信徒の皆さま、とりわけ実行委員としてお手伝いを頂いたみなさま、また、県内外のご寺院の皆さまの支えがあればこそこのことと、深く感謝申し上げます。

さて、昨今の日本の情勢とはいいますと、決して平穏無事とは申せません。多くの人々が歴史上例を見ないほどの物質的豊かさを享受しているにも関わらず、不満や不安が渦巻いています。きらびやかな衣装を身にまとい、グルメ料理に舌鼓を打っていても、心の中は必ずしも充足されていません。このことは、物の豊かさが、すなわち心の豊かさを意味するのではないということを表しています。

かつて「お金で何でも手に入る」などと開き直る若者が世間の耳目を集め、マスコミや政界にもてはやされたことがあります。確かにお金さえあれば、たいがいの物は買えますが、心の豊かさ、すなわち、ほんとうの幸せはお金で買えるものではありません。このことは、洋の東西を問わず、人類の歴史の中で幾度となく語られ、証明されてきたことです。

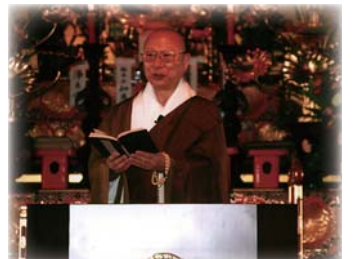
およそ二千四百年前にお釈迦さまは、心豊かに暮らす方法、すなわち人として本当に幸せになるための道をお説きになりました。それが仏法にほかなりません。

さらに、法然上人はおおよそ八百年前に、称名念仏、つまり阿弥陀さまの本願を信じて、お念仏を称えることが、数多くの仏法の中で、凡夫、つまり普通の人々には最もふさわしいと思ひ定め、浄土宗を開いてお念仏の教えを広めました。

大寶寺がそのようなお念仏を学び実践する場として、また、ご先祖供養する場として、皆さまの心を豊にするお手伝いができればと、思っています。



蝶々の衣装を身にまとったお稚児さん。



知恩院布教教務部長安居良道上人のご布教。



坪井俊映猥下にお導師をお勤め頂いたお待ち受け法



仏さまの智慧を授ける儀式、灌頂を受ける稚児。



大寶寺第26世晋山式
元祖大師800年大遠忌法要

祝宴ハイライト



境内にて坪井猥下をお見送り。



トピックス

越前市文化財指定

4 月 16 日 (月)

大寶寺に代々伝わる「阿弥陀如来立像」と「善導大師」の仏画が、中山町永泉寺所蔵の「地獄十王図」とともに越前市の文化財に指定されました。

「阿弥陀如来立像」は大寶寺開山に際し知恩院から授かった鎌倉期の仏像です。

「善導大師」の仏画は室町時代のもと思われる、南無阿弥陀仏の六字の名号を表す仏さまが描かれていますが、六体目はまさに口から出ようとしているという珍しい仏画です。

4 月 17 日には福井新聞に、また 4 月 28 日には読売新聞に紹介されました。



福井新聞に掲載された記事



お檀家さんの発案で、境内の枝垂れ桜の取り木をすることになりました。順調にいけば、秋には枝垂れ桜の子どもが誕生する予定です。乞うご期待。



ご案内

第38回おてつぎ奉仕団

5 月 29 日 (火)・30 日 (水)

恒例の総本山知恩院おてつぎ信行奉仕団の旅行を計画しました。一日目は本山にて、草取りやふき掃除などのご奉仕、また、礼拝やお話を聞きます。二日目は知恩院の本堂にあたる大殿にて朝のお勤めに参列したあと、お説教を聞きます。その後、知恩院を後にして、京都の清涼寺、寶巖院、琵琶湖アートギャラリー、築城四百年目の彦根城などの観光をします。別紙をご覧ください、お申し込み下さい。

お講さんのご案内

毎月十二日

せっかくご家庭にお仏壇があるなら、朝夕にお勤めをしたいものです。大寶寺では毎月 12 日にお講さんをして、お勤めの練習をいたします。声を出してお経を称えることは、良い功德になります。心身の健康にも良いことです。お経本などはこちらで準備します。その都度、五百円程度のお茶菓子代を頂きますが、費用は無料です。お申し込みは電話などで直接お寺にお願いします。

塩沼亮潤さんのお話しは DVD の「心の時代」という番組で語られたものです。DVD を貸し出し致しますので、ご希望の方はご連絡下さい。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

修験の行

千日回峰行という荒行がある。比叡山の行がよく知られているが、それ以上に厳しいのが奈良県大峯山の千日回峰行である。桜で有名な吉野山にある修験道の根本道場金峯山寺蔵王堂から、標高一七一九 m の山上ヶ岳までの 24 キロを往復する。足を踏みはずせば命を落としかねない鎖場もある。真夜中の十二時に出発しても、帰ってくるのは午後の三時になるそうだ。



五月初旬から九月初旬にかけて、この行程を水とおにぎりだけで一日も休まず歩く。九日間かけて合計千日歩くのが千日回峰行だ。体調を崩しても休むことは許されない。途中で止めることになれば短刀で自害するのが掟とされる真剣勝負の荒行だ。

その後、四無の行が待ち受けている。九日間の断食、断水、不眠、不臥(立つか座るかで、臥せることがない)が求められる。師僧や仲間

の修行僧と生き葬式をして臨む命懸けの行だ。また、百日間、塩と五穀(米、大麦、小麦、大豆、小豆、ごま)を絶った上で挑む八千枚大護摩供もある。三メートルもの炎の前で、一昼夜にわたって護摩木を焚くと、たいがいの修行僧は顔に火傷を負うそうだ。



これらの荒行を三十代前半で満行した塩沼亮潤氏には大阿闍梨の称号が与えられた。阿闍梨とは弟子たちの規範となり、法を教授する師匠のことである。塩沼亮潤大阿闍梨のことばに耳を傾けてみよう。

(最初の内は力んで歩いてきた。そうすると膝や腰を痛める。そのことを悟って)山もやさしく歩いてあげると、そのやさしさが、かえってくる。自然にもやさしくしていかないとだめなんだということを山に教えて頂きました。

行をしているといろんなことを体験します。何でこんなにつらい思いをしなければならぬのかと思つた時もあります。でも、こつこつとつらさとか苦しきというものは、仏さんが自分の成長のために与えてくださったプレゼントなんだということが、だんだんにわかってきました。

好きな人も嫌いな人もいます。良い縁も悪い縁もあります。でも、どちらにも感謝していくことが大切な行だと思えます。

今が良ければ昔はすべて良くなります。今が悪ければ、昔がすべて悪いことになります。

閻魔さんの前で胸張れるように、日々良いことをして、悪いことをしない。これが信仰の原点だと思えます。

修験道という霊験や霊力うんぬんということが連想される。しかし彼のことはからはそのようなことは語られはしない。父親の暴力のせいで親が離婚するという恵まれない幼少期を過ごした彼が、難行苦行の末に得たものは、思いやりで満たした穏やかな心だ。平易で説得力のある彼のことに、そのことがうかがい知れる。

彼の説いていることは、そのまま阿弥陀如来の本願を信じてお念仏を称えよと説く法然上人の教えと重なり合う。八万四千の法門といわれる釈尊の教えが導く所が同じであるのは、当然のことというべきであろうか。